

避難の判断について知っておきたいこと

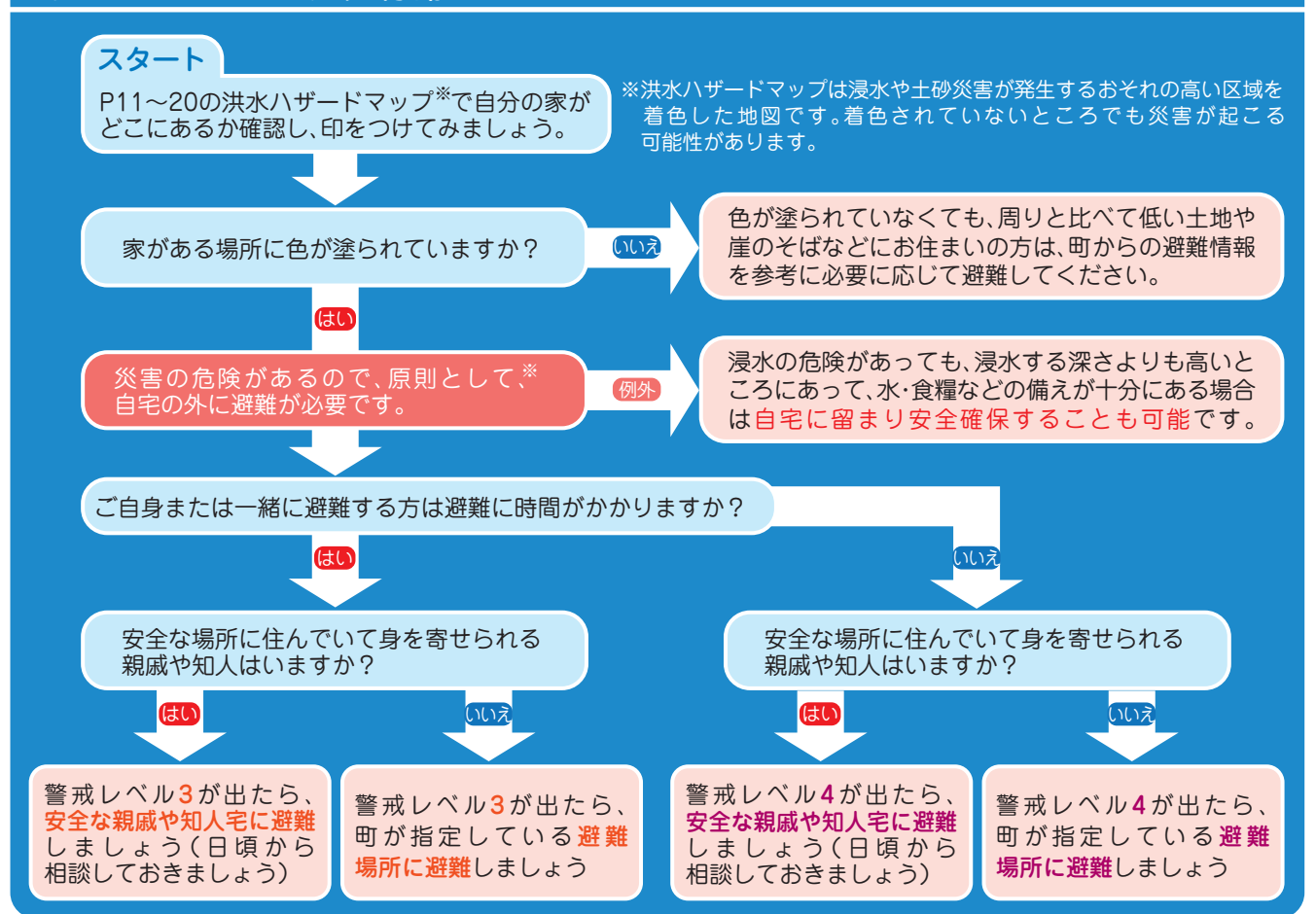
適切な避難行動を確認しよう

洪水(河川の氾濫)によって市街地や建物、畑が水で覆われることを浸水といい、その深さを浸水深といいます。一般の建物では、**浸水深が0.5m未満の場合は床下浸水、0.5m以上になると床上浸水する恐れがあり、3m以上では2階も浸水する恐れがあるため、2階への避難ができません。**

洪水の正しい避難行動は、「浸水が始まる前に避難する」ことです。浸水の中の避難は大変危険です。

11～20ページの洪水ハザードマップで自宅や職場などの浸水等の状況を確認し、下の図でいざというときの避難行動を普段から確認しておきましょう。

あなたがとるべき避難行動は？



知っておくべき避難の5つのポイント

- 避難とは「難」を「避」けること。**安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。**
- 避難先は、町の避難場所だけではなく、**安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。**
- マスク・消毒液・体温計が不足しています。できるだけ**自ら携行**してください。
- 町が指定する**避難場所が変更・増設されている可能性があります。**災害時には町のホームページ等で確認してください。
- 豪雨時の屋外の移動は**車も含め危険**です。やむをえず**車中泊**をする場合は、浸水しないよう**周囲の状況等を十分確認**してください。

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう
感染症が心配される中でも、災害時には、**危険な場所にいる人は避難することが原則**です。

土砂災害について知っておきたいこと

いろいろな土砂災害

土砂災害の多くは、雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。

<p>がけ崩れ 雨や雪解け水、地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象</p> <p>こんな前ぶれ現象に注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜面にひび割れができる ・がけから水がわき出る ・がけから小石がパラパラ落ちてくる 	<p>土石流 山や川の石や土砂が、大雨などにより、水と一緒に激しく流れ下る現象</p> <p>こんな前ぶれ現象に注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山鳴りがする ・川の流れが濁り、流木が混ざり始める ・雨が降り続けているのに、水位が下がる 	<p>地すべり 雨や雪解け水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象</p> <p>こんな前ぶれ現象に注意!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢や井戸の水が濁る ・地面にひび割れができる ・がけの斜面から水が噴き出す
--	--	---

! 前ぶれ現象を察知した場合は、土砂災害が発生する可能性があります。
直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください!

土砂災害から身を守るために

まわりに「土砂災害警戒区域」があるか確認しましょう

日頃から自分の住んでいる家のまわりや避難場所までの経路に土砂災害警戒区域があるか、ハザードマップで確認しましょう。



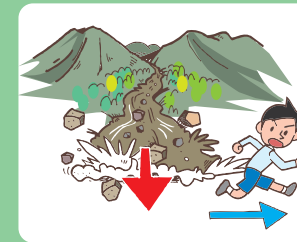
雨が降り出したら「土砂災害警戒情報」に注意しましょう

雨が降り出し、土砂災害警戒情報が発表された場合は、避難の準備をし、町の避難勧告などに従い、速やかに避難しましょう。



! 避難するときの注意点

- ・避難場所へ移動する**立ち退き避難**が基本です。
- ・避難場所や安全な場所へ避難する際、他の土砂災害危険箇所の通過は避けましょう。
- ・土石流に関しては、溪流に対して**直角方向**にできるだけ溪流から離れましょう。
- ・屋外での移動に危険が伴う状況下では、立ち退き避難がかえって危険であるため、このような場合は、**建物の2階などのより高い階にある山の反対側の部屋に待機**しましょう。



土砂災害警戒区域とは

土砂災害警戒区域とは、法律に基づき、北海道が土砂災害危険箇所について現地調査を行い、土砂災害が発生した場合に「住民の生命・身体に危害が生じるおそれがある」土地を指定した区域で、避難体制の整備や土地利用制限などの規制がかけられます。イエローゾーンと呼ばれることもあります。

ハザードマップでの表記の仕方

